

5月 ひとり1改革運動 5月

「ICTの利活用で、事務の効率化や県民サービスの向上を図ろう！」改革賞

自家用車公務使用手続の電子化

【教育委員会教育総務課給与班】



学校現場では、ほぼ全ての教職員が自家用車の公務使用をしており、その手続として、運転免許証や各種保険の内容を添付した申請を行い、事務担当者の確認を経て、所属長の承認を得ています。

また、有効期限が到来する都度、更新手続が必要であり、これらの手続の全てを紙ベースで行っていることから、多忙化の要因となっていました。

そこで、県立学校職員向けに「自家用車使用」データベースを作成し、紙による煩雑な事務処理を解消しました。

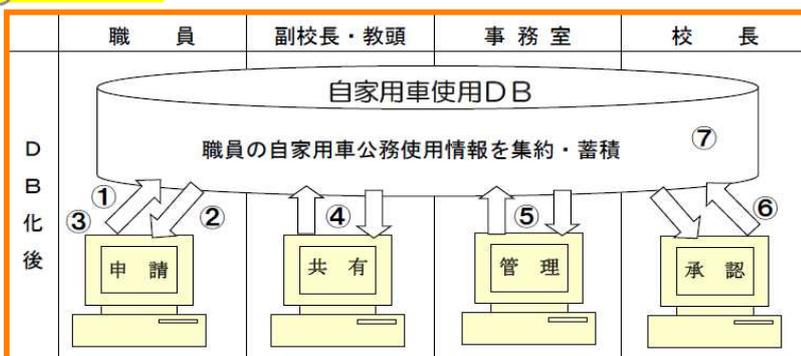
これにより、県立学校職員7,000人に係る作業時間が、年間約3,630時間削減することが見込まれます。

取組にあたって留意した点、工夫した点は？

申請時の入力内容エラーチェックや運転免許証等の有効期限チェック機能を設け、確認作業負担を軽減したほか、職員の転任時にはデータを新任校に引継ぐなど、年度を超えて管理できるデータベースとすることで入力手時間を削減しました。

今後の取組は？

定期的実施している学校訪問を通じ、学校における事務処理の課題を共有し、多くの時間を要している紙ベースの手続の電子化を推進することにより、事務の効率化を図り、教員の多忙化の解消に向けて取り組んでいきます。



- ①入力内容を自動でチェック！（エラーも表示）
- ②免許等の有効期限が到来する職員にメール配信！
- ③公務使用しない職員の免許証情報も登録・管理！
- ④免許証の保有状況等を、画面上に一覧で表示！
- ⑤公務使用状況の一覧表を、ワンクリックで作成！
- ⑥承認までDB上で完了！（承認決定もメール配信）
- ⑦人事異動後は前所属での登録情報を引継ぎ！

【静岡産業大学 情報学部 小泉 祐一郎 教授 から一言】

本件は、ICTのシーズを現場のニーズとマッチングした点が優れています。

ICTを活用して、ペーパーレス化による省力化を実現するとともに、入力ミス対策やデータベースを活用した注意喚起など業務の質的向上も図られており、働き方改革と行政改革の両方を同時に実現した模範となる事例です。